

図の上部には、次のせりふがある。

熊 **ㇿ** かく御らんきわまるうへは

御名をなのり

直実が高名

ほまれをあら

はし給へ又こん

ぜふに何事

にても思ひ

残す

御事あらば

かならずたつし

参らせんあふせ置れ候へ

あつ **ㇿ** をいぢさしき志

敵ながらあつはれ

ゆふ子かく情ある

ものゝふの手にかゝり

死せん事生ぜんのめんぼく

せんぜうにおもむくより

家をわすれ身を忘れかねて

なき身と知るゆへに思ひ置事

さらになし去なから忘れがたきは

父母の御おん我うたれしと

聞給はゞさぞ御なげき思ひやる

せめて心をなぐさむる為討れし

あとにて我しがひかならず送り

給れかしわれこそさんぎつね盛の

ばつしむくわんの大夫あつもりなるぞ

熊 **ㇿ** はあ君一人たすけしとて勝

いくさにまけもせまじおりふし

外に人もなしひとまづこゝろを

落させ給へ早くく

あつ **ム**とてものがれぬ平家の

うんめい 寝をたすかり

行先にて下司下郎の

手にかゝり死はじを

さらさんより早く御身が

手にかけて人のうたがひ

はらされよ